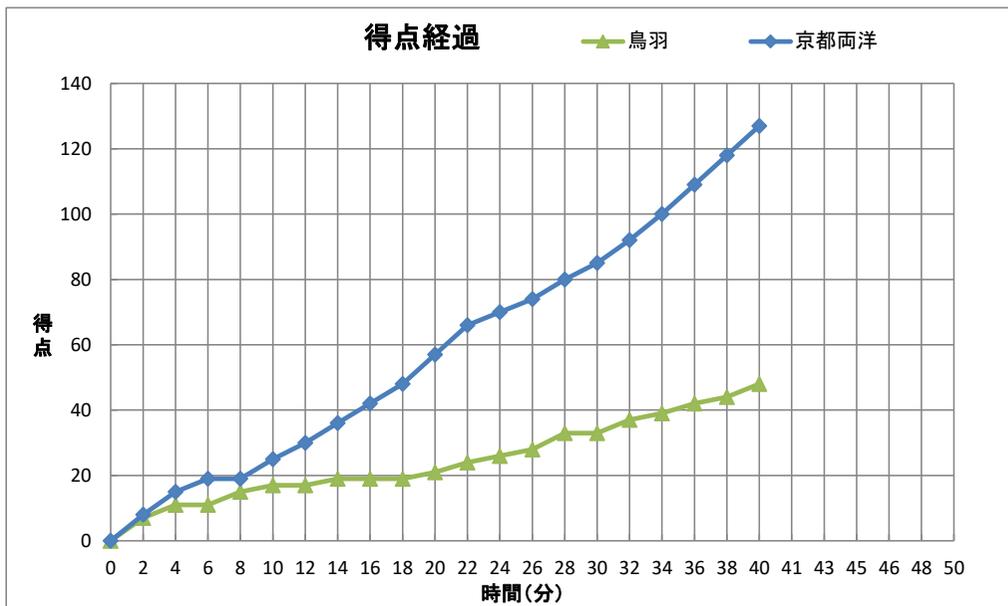




第44回京都府高等学校バスケットボール選手権大会 兼
第77回全国高等学校バスケットボール選手権大会 京都府予選

個人トータル表

女子		11月3日				10:30 開始																
決勝リーグ		島津アリーナ京都				Bコート																
鳥羽	48	<table border="1"> <tr><td>17</td><td>1st</td><td>25</td></tr> <tr><td>4</td><td>2nd</td><td>32</td></tr> <tr><td>12</td><td>3rd</td><td>28</td></tr> <tr><td>15</td><td>4th</td><td>42</td></tr> </table>				17	1st	25	4	2nd	32	12	3rd	28	15	4th	42	127	◎ 京都両洋			
17	1st	25																				
4	2nd	32																				
12	3rd	28																				
15	4th	42																				
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則									
* 00	初瀬川 陽春	11	2	2	1	0	1	ユヌス カオサヲ ガルツチフェ	2	0	1	0	0									
3	下川 真葉	0	0	0	0	0	2	杉山 心月	0	0	0	0	1									
11	稲葉 一花	2	0	1	0	0	5	高原 綾乙	16	2	4	2	1									
17	藤井 優奈	0	0	0	0	1	* 7	木谷 夢菜	13	0	6	1	1									
20	上田 沙稀	2	0	1	0	1	8	谷口 心綾	8	0	4	0	3									
* 25	田中 穂純	10	0	2	6	2	* 9	岡田 綾葉	6	0	3	0	1									
27	饒平名 厘	2	0	0	2	1	* 14	ビクトリア ウビ オコイ	17	0	8	1	3									
29	宮本 なつみ	4	0	2	0	3	17	大西 凜子	22	4	4	2	0									
* 31	安達 舞	2	0	1	0	0	18	中野 有佳子	2	0	1	0	1									
* 32	西田 心美	5	1	0	2	1	24	中島 芯	6	0	3	0	2									
* 33	和田 寧々	3	1	0	0	2	26	藤田 瑞木	0	0	0	0	0									
45	秋山 結香	7	0	3	1	1	30	古川 光鈴	5	0	2	1	1									
62	巖 詩乃	-	-	-	-	-	* 69	廣浦 杏	7	1	2	0	1									
75	宮本 のぞみ	-	-	-	-	-	* 77	林 英美	6	0	3	0	0									
93	廣田 朝羽	0	0	0	0	1	83	稲葉 明花	17	2	5	1	1									
コーチ	富山 唯					0	コーチ	吉田 聡					0									
Aコーチ	川端 奏絵						Aコーチ	甲良 泰明														
合計		48	4	12	12	13	合計		127	9	46	8	16									
主審: 小出 聡子 副審: 大溝 貴広 副審: 杉山 栄規																						



CTO	1・2P		3・4P		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	2:25	11:26	33:31	:	:	:	:	:
TeamB	:	:	23:53	:	:	:	:	:

〔戦評〕
 Winter Cup京都府予選、女子決勝リーグ、鳥羽高校対両洋高校。
 第1Q、両チームディフェンスはマンツーマンでスタート。開始直後から両洋は#77、#14のペイントアタックで着実に加点。対する鳥羽は#32の3pやファストブレイク等、多彩な攻撃を見せる。1Q中盤からは鳥羽#00のペネトレイト、両洋の3pも飛び出し点の取り合いに。その展開の中で両洋は#14、#77のペイントでの加点で1Q残り4分で11-19のリードを奪う。鳥羽も#33の3p、#00のフリースロー等で詰め寄るが、両洋は焦らずペイントエリアを攻め続け、17-25の両洋8点リードで1Q終了。
 第2Q開始早々、両洋#7のドライブで先制。ギアを一段階上げた両洋のディフェンスに対して鳥羽はなかなか攻めることができない。残り8分で鳥羽は前半2個目のタイムアウトをとって立て直しを図るが、その直後も両洋が#77のレイバック等で得点をし、2Q開始から9-0のラン。鳥羽は残り6分、#25のフリースローで2Q最初の得点。しかし両洋が#7の鋭いドライブ、粘り強いオフェンスリバウンドからの得点で一気に点差を広げること成功。その後も両洋は#1のゴール下や、コートを広く使ったスペーシングからの#69や#5のドライブもさえ、得点を重ね続ける。ディフェンスではスイッチを有効に使いながらの激しいプレッシャーで鳥羽を苦しめる。鳥羽も#45のシュート等で応戦するが、なかなか得点が伸びず21-57の両洋リードで前半が終了。
 第3Q、両洋の#69の3pで得点が動き出す。両洋はディフェンスの激しいプレッシャーからの速攻や#7のインサイドアタックからのバスケットカウント等で点差を広げる。鳥羽も#25や#31のゴール下での粘りで何とか応戦するが、両洋の速攻や3p等の豊富な攻めを止めることができず、33-85の両洋リードで3Qが終了。
 第4Qは両チームともに多くの選手を起用しながらの戦いとなる。中盤から鳥羽はディフェンスをゾーンに切り替え試合の流れを引き寄せようとするが、得点が思うように伸びず、逆に速攻からの得点等を許してしまう。両洋は10分間を通して足を使った速いバスケットを展開し続け、しっかりと点差を広げながら試合を終えた。48-127で京都両洋が勝利。